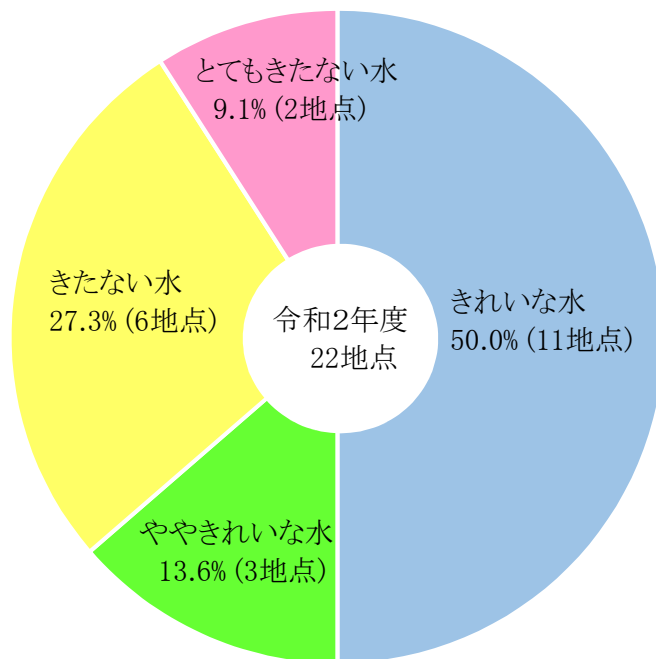


2. 調査結果

(1) 水質階級別調査地点数の割合

水質階級別調査地点数は、図 1 に示すとおり、水質階級が“きれいな水”と判定された地点は 11 地点(50.0%)、“ややきれいな水”と判定された地点は 3 地点(13.6%)であった。

一方、“きたない水”と判定された地点は 6 地点(27.3%)、“とてもきたない水”と判定されたのは 2 地点(9.1%)であった。



<図 1> 水質階級別調査地点数の割合

(2) 前年度に対する水質階級の比較

令和 2 年度の調査地点 22 地点のうち 18 地点が令和元年度と同じ地点での調査であった。このうち、水質階級を比較すると、同じであったところが 12 地点、良くなったところが 2 地点、悪くなったところが 4 地点であった。(表 2)

<表 2> 前年度に対する水質階級の比較 (前年度と同一地点で実施された地点の比較)

	前年度より良くなった	前年度と変わらない	前年度より悪くなった	全地点数
調査地点数	2	12	4	18
割合 (%)	11.1	66.7	22.2	100

(3) 水生生物調査結果一覧

水生生物調査結果一覧を表 3 に示す。

(4) 指標生物の出現状況

指標生物の出現頻度及び最も数が多いと報告された指標生物(優占種)の出現頻度は、表 4 のとおりである。

＜表 4＞ 指標生物の出現頻度及び優占種となった指標生物の出現頻度

水質階級	指標生物	指標生物(○+●)		出現割合(%)	優占種(●)	
		頻度(回)	割合(%)		頻度(回)	割合(%)
I きれいな水	1 アミカ類	2	1.6	41.4	0	0.0
	2 ナミウズムシ	10	7.8		5	13.9
	3 カワゲラ類	8	6.3		2	5.6
	4 サワガニ	5	3.9		0	0.0
	5 ナガレトビケラ類	5	3.9		2	5.6
	6 ヒラタカゲロウ類	10	7.8		6	16.7
	7 ブユ類	4	3.1		1	2.8
	8 ヘビトンボ	3	2.3		0	0.0
	9 ヤマトビケラ類	4	3.1		0	0.0
	10 ヨコエビ類	2	1.6		1	2.8
II ややきれいな水	11 イシマキガイ ※	4	3.1	21.9	1	2.8
	12 オオシマトビケラ	4	3.1		0	0.0
	13 カワニナ類	2	1.6		1	2.8
	14 ゲンジボタル	0	0.0		0	0.0
	15 コオニヤンマ	5	3.9		2	5.6
	16 コガタシマトビケラ類	6	4.7		1	2.8
	17 ヒラタドロムシ類	5	3.9		1	2.8
	18 ヤマトシジミ ※	2	1.6		0	0.0
III きたない水	19 イソコツブムシ類 ※	1	0.8	21.1	1	2.8
	20 タニシ類	4	3.1		1	2.8
	21 ニホンドロソコエビ ※	4	3.1		2	5.6
	22 シマイシビル	7	5.5		4	11.1
	23 ミズカマキリ	4	3.1		0	0.0
	24 ミズムシ	7	5.5		3	8.3
IV きとたない水	25 アメリカザリガニ	0	0.0	15.6	0	0.0
	26 エラミズ	3	2.3		0	0.0
	27 サカマキガイ	4	3.1		0	0.0
	28 ユスリカ類	5	3.9		2	5.6
	29 チョウバエ類	8	6.3		0	0.0
合計		128	100	100	36	100

(注) ※は、海水の少し混ざっている汽水域きすいいきの生物

(注) 割合については四捨五入のため、合計が 100%にならないことがある。